HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	台湾における在外研究の成果報告 ： 「台湾社会変遷基本調査」を用いた宗教研究および「宗教と利他主義」研究
Author(s)	寺沢, 重法
Relation	2012年度「宗教と社会貢献」研究会報告資料（2012年11月17日、國學院大學渋谷キャンパス、口頭発表）
Issue Date	2012
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56634
Type	conference presentation
File Information	terazawa2014072802.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

台湾における在外研究の成果報告
――「台湾社会変遷基本調査」を用いた宗教研究および「宗教と利他主義」研究――

北海道大学大学院文学研究科
人間システム科学専攻・社会システム科学講座・助教
寺沢重法（shterazawa@let.hokudai.ac.jp）

本小報告は、2012 年 7 月 23 日～9 月 23 日にかけて、発表者が台湾中央研究院社会学研究所に客員研究員として在籍した際に行った在外研究の成果の一部を紹介するものである。

当日は以下の 3 つの内容を発表した。

(1)TSCS の概略:「台湾社会変遷基本調査」(Taiwan Social Change Survey、以下 TSCS)は、中央研究院社会学研究所が中華民国行政院国家科学委員会の支援のもと台湾で毎年実施しているサンプリング調査である（第 3 期第 1 次調査以前の調査主体は中央研究院民族学研究所)。1985 年の第 1 回調査以降、ジェンダー・社会階層・文化・余暇生活など様々なトピックの調査が、ほぼ 5 年単位のローテーションで繰り返し実施されている。2002 年以降は、代表的な国際比較調査である“International Social Survey Program”（ISSP）や日本・中国・韓国と共同で実施する“East Asian Social Survey”（EASS）に参加し、国際比較調査としての役割も担うようになっている 。本小報告では、TSCS の宗教モジュールを中心に紹介した。

(2)TSCS を用いた宗教研究の論文・研究の広がり：TSCS を用いた宗教の計量的研究をリスト化して紹介し、台湾内外における研究の広がりを検討した。

(3)TSCS データを用いた宗教と利他主義に関する論文：(2)で取り上げた論文の中から、本研究会に関連の深いテーマを扱った論文として、朱瑞玲・周玉慧（2012）「台湾社会的慈善感与道徳感」朱瑞玲他編『台湾的社会変遷 1985～2005　心理・価値与宗教――台湾社会変遷基本調査系列三之 2』（中央研究院社会学研究所、台北）の一部を紹介した。この論文では、宗教的な利他意識である「因果慈善観」の時系列変化や規定要因、ならびに寄付行動と宗教の関連などについての分析が行われている。

質疑応答：TSCS 宗教モジュールの調査チームの特徴、TSCS 宗教モジュールにおける四大仏教の扱われ方、日本の宗教研究との共通性、日本での応用可能性などについて議論が行われた。